

# より強く発信し魅せていく

## 近年の本市の取り組みなど



1「ウエストテクノ佐世保」への立地決定に伴うシーヴィテックとの立地協定調印式(26年11月19日) 2大型国際クルーズ客船「フォーレンダム」出港に伴う送迎セレモニー(26年4月4日) 3多くの人出でにぎわった「させぼ五番街」オープンの日の様子(25年11月29日) 4おいしそうに給食を食べる相浦中学校の生徒(27年1月27日) 5長崎がんばらば国体で成年女子ソフトテニスの試合に臨む長崎県チーム(26年10月16日) 6「全国和牛能力共進会長崎県大会(和牛の祭典)で審査会場に整列した各県の代表牛(24年10月27日)

佐世保港国際ターミナル  
Sasebo Port International Terminal

国際観光都市としての機能を高めるため整備を進めていた国際ターミナルビル。4月に供用開始しました。



2月27日(金)、3月定例会市議会が開かれ、朝長市長が平成27年度の市政運営の方向性や取り組みなどを示す「施政方針」を説明しました。その内容を抜粋、要約してお知らせします。

私の2期目の取り組みを3つの重点プロジェクトを中心に申し上げます。

「成長戦略プロジェクト」では、佐世保工業団地「ウエストテクノ佐世保」の完成と自動車部品メーカーの立地決定、「海風の国佐世保・小値賀観光圏」や「九

十九島かき」など観光物産におけるブランド展開、三浦岸壁の整備とクルーズ客船の誘致による国際戦略の推進などを展開してきました。

「安全・安心なまちプロジェクト」では、防災行政無線の整備による防災体制の確立や総合病

院救命救急センターの本格稼働を契機とした救急医療体制の構築などに取り組みしました。

「地域の絆プロジェクト」では、地域コミュニティの活性化のため、市内4地区での地域コミュニティモデル事業の実施や、交通不便地区対策として「乗合タクシー」の本格運行などの事業を展開しました。

また重点プロジェクト以外にも、ハウステンボスの再建達成、「栄・常盤地区の市街地再開発」や「させぼ五番街」のオープンに伴う中心市街地の魅力向上、1市6町合併に伴う新市まちづくり、中学校における完全給食の実施、徳育推進のまちづくり、「長崎がんばらば国体・長崎がんばらば大会」や「全国和牛能力共進会長崎県大会」など全国規模のイベント開催に、それぞれ取り組みました。

これらの取り組みによる成果は、本市の産業づくりや地域づくり、安全・安心なまちづくりなどに着実に現われてきているものと思います。これまでそれ

ぞれの立場でご協力いただいた皆さまに改めて厚く御礼を申し上げます。

### 魅せる、見せる

平成27年度は、これまでの「みなど」や「まちなか」の大規模なハード整備で創出された「人々の動きとにぎわい」をさらに活力あるまちづくりにつなげるため、佐世保の魅力をより強く発信し、「魅(見せていく)ことが大切と考えています。

「オール佐世保」の体制で、自然・食・まち・文化・歴史・暮らし人々など全てをアピールし、魅了する意味での「魅せる」と、また、市民の皆さまの理解と合意を得るために、行政の取り組みを分かるように示す意味での「見せる」ことが重要です。

職員全てが率先して知恵を絞り、創意工夫をもって、第6次佐世保市総合計画に掲げる37の政策全てにおいて佐世保市を国内外へ発信し、「魅(見せていく)きたいと思っています。



3つの重点プロジェクト

成長戦略プロジェクト

企業立地の推進については、昨年11月、佐世保工業団地「ウエストテクノ佐世保」に、シーヴィテックの立地が決定しました。今後は立地企業の操業支援にできる限りの努力を行うとともに、新たな企業誘致の成功に向け、誘致活動を強力に展開します。

観光振興については、西海国立公園指定60周年や「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録の動き、佐世保港国際ターミナルの供用開始など、本市観光にとっての追い風を大きなチャンスと捉え、好調が続くハウステンボスや観光関係団体等との連携をより一層強化し、国内外からの観光客誘致に取り組みます。

特に、西海国立公園指定60周年に合わせ、「九十九島」の全国的な認知度向上を図るため、首都圏をメインターゲットに、九十九島PRの具体的な施策を展開します。

「海風の国」佐世保・小値賀観光圏事業については、観光立国の基本理念である「住んでよし、

訪れてよし」の観光地域づくりとブランド確立を図り、滞在交流型観光を推進します。

現在、県と検討しているカシノを含む統合型リゾート（IR）誘致については、国政における立法化の動きを見極めながら、市民の皆さまのご理解を賜り、誘致に向けた積極的な取り組みを進めていきたいと考えています。

観光振興の取り組みを進めるためには、市民の皆さまのご理解とご協力が不可欠です。皆さまとともに「おもてなしの心」をもって観光客を受け入れることが肝要と思いますので、させほ観光3しいGO事業などを通じて、「佐世保に来て良かった」「また来たい」と感じていただける観光地域づくりに努めます。

国際戦略の推進については、国際観光都市としての機能を一層高めるため、三浦地区で整備を進めていた国際ターミナルビルが、いよいよ4月に供用開始することになり、「7つの海から佐世保港へ」「佐世保港から7つの海へ」と、佐世保港が商港・観光港として新たに動き出すための基盤が整いました。

このことにより、本市が掲げている「東アジアへ向けた九州サブゲートウェイ構想」がより具体化することになり、4月に



「海風の国」佐世保・小値賀観光圏の取り組み

観光圏事業は、「観光立国」の実現に向け、国際競争力の高い魅力ある観光地域の形成を推進するための国（観光庁）の施策の一つ。地域のさまざまな資源を活用し魅力を高めることで、滞在型観光を行うことができる観光圏を形成することが目的。平成25年度に「海風の国」佐世保・小値賀観光圏を含む全国6地域が認定され、翌年度に4地域が追加認定されました。本市は小値賀地域と連携し、5年をかけて「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりを推進することとしています。

降も20隻以上の外国船籍のクルーズ客船の寄港が予定され、また、今後の寄港増加も期待できる状況となっています。

引き続き、大型クルーズ客船の誘致強化を図るとともに、受け入れ体制の整備に努め、背後地観光を含めた佐世保港の魅力アピールします。併せて、外国人観光客に対する免税対応について早期に推進体制を確立し、中心市街地における免税店拡大を図ります。

国際定期航路開設については、長崎県とともに韓国船社と協議を進めていますが、具体的な状況までには至っておらず、引き続き協議を進めていきます。

農林水産業については、西海

みかん、世知原茶、九十九島かき、九十九島いりこ、九十九島とらふぐ、長崎和牛などのさらなる品質向上や生産量の維持・拡大のため、生産基盤の整備や担い手の育成などの各種支援により、産地としての地位確立に努めます。

市町村別漁獲量で県内1位、全国でも11位の漁獲量を誇る水産業については、喫緊の課題である資源増産の対策として、栽培漁業の推進とマガキ種板の生産供給やアサリ増殖事業による養殖業の育成支援を行います。

「佐世保市農水産物産地化・ブランド化事業」では、認定した産品への継続的な支援を行いながら、付加価値の高い新たな産

品の創出につなげ、農水産業者の所得と生産意欲の向上を図ります。

ふるさと納税制度を活用した本市特産品の振興を図るため、本市の魅力ある特産品を返礼品として送付するなど制度の充実を図り、より多くの方々にさせほ産品の愛用者となっていただくよう、「させほ戦略産品」を中心とした重点的なプロモーションを行います。

安全・安心なまちプロジェクト

防災・減災事業については、「佐世保市防災・減災事業計画」に基づき、備蓄体制の強化、防

災行政無線の難聴地域対策や消防団の装備品の充実などの事業を推進します。

医療の提供体制については、佐世保市立総合病院の救命救急センターを核とした救急医療体制のさらなる強化を図るとともに、高度急性期から回復期、在宅医療に至るまで、切れ目なく必要な医療が提供される体制の構築を目指します。

地域の絆プロジェクト

まちづくりの基盤である町内会などの地域コミュニティの活性化を図るとともに、NPOなどのまちづくりの担い手を支援しながら、高齢者福祉や子育て支援など、暮らしのさまざまな分野において、協働によるまちづくりを進めます。

特に、地域コミュニティ活動の支援・活性化については、地域の一体的なまちづくりの主体となる「地区自治協議会」の設立をはじめとする地域コミュニティ活性化に向け、26年度に策定した「地域コミュニティ推進計画」に基づき、27年度から市内全域を対象とした取り組みを実施し、順次、各地区での地区自治協議会の設立を進めます。

地域の最も基礎的な組織であ

地域の一体的なまちづくり  
地区自治協議会の設立  
↓  
平成27年度から市内全域  
を対象に取り組みを実施!

る町内会の活性化についても、運営しやすい町内会づくりなどを目的として策定した「町内会活性化ガイドライン」を各町内会に提案します。

また、市民の皆さまが地域活動に安心して参加することができよう「市民活動保険」を創設し、支援します。

予算編成について

27年度は市長改選期であり、政策的な経費等については改選後の補正予算に盛り込むというのが通例ですが、アベノミクスの成果がまだ地方まで浸透していない現状から、生活関連公共事業など市民生活に直結するような事業については極力当初予算に計上し、計画的・安定的な行政サービスの提供、公共事業等の速やかな予算執行等による景気の下支えに努めました（当初予算の概要は来月号でお知らせする予定です）。

東アジアへ向けた九州サブゲートウェイ構想



佐世保港国際ターミナルビル完成式典（2月21日）

本市は東アジア地域と近接している地理的優位性に加え、ハウステンボスや西海国立公園九十九島などの魅力的な観光資源を有しており、また、これまで中国・韓国の姉妹都市等をはじめとした主要都市との交流の実績を積み重ねてきました。これらの強みを生かし、東アジア地域の各都市と連携しながら、東アジア地域の経済成長を積極的に取り込むため、佐世保港を拠点として東アジア地域からの人流や物流の受け皿となるターミナル機能を構築するとともに、他の海路や空路との連携により、その往来を活発化させることで、交流人口や貿易の拡大を促進し、地域経済の維持・発展を目指すものです。

主な取り組み

- ①佐世保港における国際ターミナル機能の整備
- ②クルーズ船の誘致促進
- ③国際定期航路の誘致促進
- ④不定期航路の誘致促進
- ⑤他の港や空港と連携した観光客誘致促進
- ⑥外国人受け入れ態勢の推進



まちづくりの7つの基本目標と主な施策

①雇用を生み出す  
力強い産業のまち

地場産業の振興については、低利の制度融資を引き続き実施するほか、保証料補給や利子補給等を行うことで市内企業の負担軽減を図るなど、実情に応じた対策を講じます。

造船関連産業については、「ながさき海洋・環境産業拠点特区」を活用し、造船関連技術を生かした海洋関連産業の振興を図ります。

創業支援については、昨年3月に国から認定を受けた「佐世保市創業支援事業計画」に基づき、商工会議所や金融機関等と連携して新規創業者数を増加させ、市内での雇用の場の創出に努めます。

相浦中里インターチェンジ用地を活用した地産地消推進施設については、運営事業者や国県等の関係機関と調整を図りながら、本年中の開設を目指して整備を進め、道の駅登録に向けた国との協議を進めます。

農水産業の振興については、特に干ばつによる影響を受けや

すい「西海みかん」について、引き続き灌がい対策を推進します。また、9月には「第59回全国りんご研究大会」が本市で開催されますので、全国に「西海みかん」をPRし、さらなるブランド力の向上を図ります。

②あふれる魅力を創出し  
体感できるまち

国際政策の推進については、日中間、日韓間の厳しい情勢が続いていますが、「国際戦略活動指針」に基づき、中国・韓国など東アジアのほか、近年経済成長が続く東南アジアの諸都市との交流促進を図ることでアジア諸国の活力を取り込み、本市の地域活性化につなげるため、関係機関と連携を図りながら、シティーセールスの実施や海外都市調査等を行います。

観光客の誘致促進については、観光関係団体と連携した広報宣伝や佐世保観光の素材発掘に継続して取り組むとともに、ソーシャルネットワークキングサービ（SNS）等を活用し、国内外からの観光客に向けた、旬な情報発信に努めます。

また、「海風の国」佐世保を体感していただくコンテンツとして、4月から、佐世保らしさを感じ

SASEBOクルーズバス「海風」



オリジナル観光バス「海風」で市内の名所を巡るツアーを4月から新たに運行予定です。バスはイタリアの名門「イタルデザイン社」でフェラーリやランボルギーニを手掛けた石井明氏がデザインしました。詳しくは次号以降にお知らせします。

☎佐世保観光情報センター

☎23-3369

じさせる「SASEBOクルーズバス『海風』（うみかぜ）」と「佐世保港クルーズ」の運行を開始するなど、選ばれる観光地となるための新たな魅力を創出します。

さらに、西海国立公園指定60周年に合わせ、九十九島の眺望を楽しめる展望台の案内看板設置や周辺道路の改良等を行うとともに、新たな九十九島海賊遊覧船「みらい」の就航や、九十九島水族館「海きらら」と九十九島動物園「森きらら」を結ぶシャトルバスの運行などの民間活力を重ね合わせ、九十九島エリアの魅力創出と情報発信の強化に努めます。

世界遺産登録推進については、「長崎の教会群とキリスト教関

連遺産」が国からユネスコへ推薦されたことを受け、28年度における世界遺産登録を確かなものにするよう、長崎県や熊本県、関連6市2町と連携して対応します。

市立看護専門学校については、県の看護キャリア支援センター施設と合築した新校舎の機能を充実させ、4月から供用開始します。これに合わせ、学生数も1学年80人に倍増させており、今後も質の高い看護教育を実施し、地域の看護師確保に努めます。



新市立看護専門学校のイメージ図

③健康で安心して  
暮らせる福祉のまち

市立総合病院においては、地域の保健・医療施設との連携を強化し、地域医療支援病院としての役割を果たすとともに、昨年3月に竣工した救命救急セン

28年10月には、60歳以上の高齢者によるスポーツと文化イベントの総合的な祭典として「第29回全国健康福祉祭ながさき大会」、愛称「ねんりんピック長崎2016」が開催されますので、本市開催予定の3競技について

リハーサル大会を開催し、本番に向けて課題の抽出などを行います。

④心豊かな人を育むまち

幼児期の学校教育・保育、地域の子ども・子育て支援を総合的に推進するため、27年度から「子ども・子育て支援新制度」が始まります。

新制度では、基礎自治体である市町村が実施主体となり、認定こども園、幼稚園、保育所を通じた共通の給付を行うとともに、在宅の子育て家庭を含む全ての子育て家庭と子どもを対象として、地域の実情に応じた子

ども・子育て支援の充実を図っていくこととなります。新たに策定した「新させほっ子未来プラン」に基づいて、子どもと子育ての環境整備に努めます。

栄・常盤地区市街地再開発事業が完了したことで、中央公民館の全施設が2月から供用を開始しています。また、療育と子育て支援活動の拠点施設である子ども発達センターにつきましても、同じくサンクル4番館に移転オープンしました。

これにより、既にオープンしている福祉活動プラザと合わせ、利便性の高い栄・常盤地区において、障がい者や乳幼児から高齢者までの幅広い年齢層の市民

⑤人と自然が共生するまち

市民一人一人の環境問題についての理解を促すため、地球温暖化防止など環境問題に関する啓発に努めるとともに、佐世保市環境教育等推進行動計画に基づき、学校版環境ISOの推進

の皆さまに、複合的な行政サービスを提供するゾーンが形成されました。市民の皆さまが利用しやすい施設運営を目指します。徳育については、「徳育推進のための行動計画」に基づき、「佐世保徳育推進会議」と連携しながら、引き続き「徳運動」などを広く周知・啓発します。

⑥安全な生活を守るまち

近年急増する集中豪雨を踏まえ、急傾斜地崩壊対策などの土砂災害・浸水被害防止へ向けた取り組みを強化します。

老朽危険空き家等の対策は全国的な問題であり、昨年11月に「空き家対策の推進に関する特別措置法」が公布されたことから、その内容を踏まえ、「空き家等の適正管理に関する条例」による指導や除去費補助の支援を行いながら居住環境の改善を図ります。

現在工事中の東消防署は27年度末の完成を目指しており、完

成後は消防職員等の教育訓練をはじめ地域住民の研修等にも活用できる施設とします。

⑦快適な生活と交流を支えるまち

平成34年開業を目指し着工されている九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）の短絡ルートは、県北住民の「苦渋の選択」の結果生まれたものであり、新幹線の効果を県北地域に波及させるためにも、フリーゲージトレインの本市への乗り入れを含むJR佐世保線等の輸送改善は必要不可欠です。実現に向けて、県を主導として、国やJR九州への要望活動や必要な調査に引き続き取り組めます。

市営バス事業については、26年度からの新たな交通事業改善計画に沿って改善・改革を継続的に推進します。

また、今後は老朽化したバス車両を、乗り降りしやすく人に優しいノンステップバスへ更新を図るなど、運行サービスの維持・向上に向けた設備投資も必要となりますので、26年度決算を踏まえ、今後の運賃改定を視野に入れた事務作業に取り組めます。

ねんりんピック長崎2016



「ねんりんピック」の愛称で親しまれている「全国健康福祉祭」は60歳以上の人を中心とした健康と福祉の祭典です。スポーツや文化など多彩なイベントが開催され、地域や世代を超えた交流の輪が広がっています。厚生省創立50周年を記念して、昭和63年に兵庫県で第1回が開催されて以来、毎年開催されています。平成28年の第29回大会は長崎県で開催します。

佐世保市での開催種目

テニス、太極拳、ダンススポーツ  
会期

平成28年10月15日(土)～18日(火)

※27年度はリハーサル大会を開催する予定です。

☎健康づくり課 ☎24-1111